

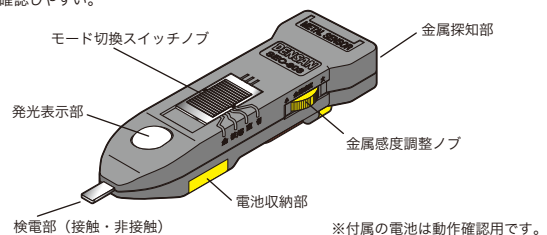
ウルトラ4Eチェッカー SEC-903B

取扱説明書

特長

ウルトラ4Eチェッカーはモード切替スイッチにより検電機能と金属探知機能を切り替えて使用します。

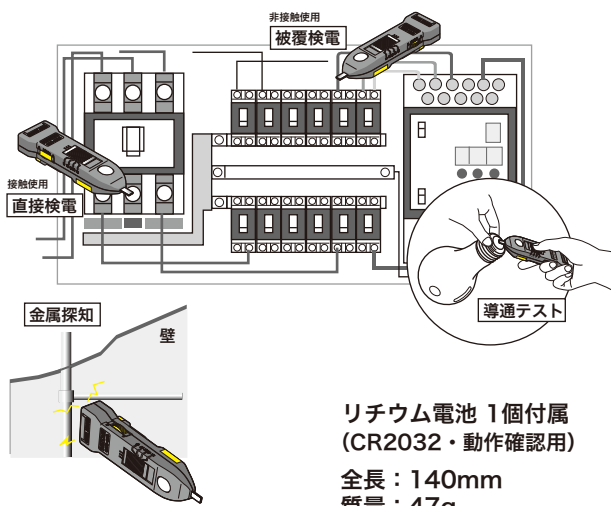
- 1) 非接触使用：ケーブルの被覆の上に当てるだけでAC100V以上の検電OK（電源側、接地側の判別も可能）
- 2) 接触使用：コンセント等の充電部の端子に直接接触させて区分検電（AC100V/200V以上）がおこなえる。
- 3) 導通テスト：回路・ケーブル等の導通テストができる。
- 4) 極性チェック：電池の ⊕ ⊖ 極性チェックもできる。
- 5) 金属探知：壁・天井・床等に近接する金属配管、スイッチ等ボックスの位置、金属補強材、ネジ、釘、電線ケーブル等の探知が可能。
- 6) 電源切り忘れによる電池の消耗を防ぐため、オートパワー-OFF回路搭載。（電源ONで3分以上使用しない場合）
- 7) 超高輝度発光LEDで大きな表示窓が赤色に発色、また同時に電子音が鳴るために動作確認しやすい。



【仕様】

〈検電部〉		〈金属探知部〉	
直接検電AC100V	対地電圧 (80V~120V)	金属探知の感度最大点における	
直接検電AC200V	対地電圧 (160V~300V)	探知距離の目安例	
被覆検電AC	80V~300V	・φ2.0mm×2 VA線	約20mm
導通	10MΩ以下	・φ25.4mm電気配線管	約70mm
DC極性	0.8V~24V	・φ21.7mmガス水道管	約50mm
電源	リチウム電池 (CR2032)	・ネジ釘の頭	約20mm

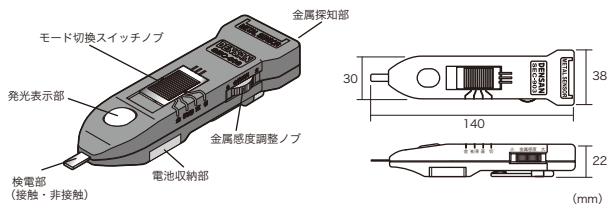
音と光で区分検電・導通テスト・金属探知



リチウム電池 1個付属
(CR2032・動作確認用)

全長：140mm
質量：47g

このたびは、ウルトラ4Eチェッカーをお買い上げいただきまして
まことにありがとうございます。お読みになった取扱説明書は、
お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。



【使用前の確認】

- (1) 金属感度調整ノブを小の方向にいっぱいに回します。
- (2) モード切替スイッチノブを(切)の位置から(直)の位置にしたときピー音と同時に発光表示部がピカッと光り電源が入ります。更に(被/導)に切替え、スイッチノブに親指を触れながらもう一方の手で検電部に触れるとピー音と同時に発光表示部がピカッと光ります。この時発光表示部の発光が弱い、又は発光しない場合は電池が消耗している可能性がありますので、新しい電池に交換してください。

【検電する場合】

A) 直接導体に触れて区分検電を行なう場合

モード切替スイッチノブを(直)の位置(図1)に切り替え、スイッチノブに触れながら(図2) 検電を行います。

〈直接検電〉AC100Vの場合

- (1) 非接地側(活線側)の導体に触れた場合は、1回の断続音と1回の断続発光をします。(図3)

- (2) 接地側の場合は音も光も反応しません。

〈直接検電〉AC200V以上の場合

- (1) 非接地側の導体に触れた場合は、2回の断続音と2回の断続発光をします。(図4)

- (2) 接地側の場合は音も光も反応しません。

- (3) 単相3線式の200V及び3相V結線(動力、電灯併用の場合)の2本の線は、対地電圧100Vであるため直接検電AC100Vと同じ動作状況となりますのでご注意ください。また、3相V結線(動力専用の場合)△結線、Y結線においては、そのうちの1本は接地されていますので音も光も反応しませんが他の2本は200Vの対地検電ができます。(なお200V以上の場合も200Vの検電状態となります)

B) 被覆の上から検電する場合

モード切替スイッチノブを(被/導)の位置(図5)に切替え、スイッチノブに触れながら(図2) ケーブルの被覆の上から検電を行います。(検電部の平らな部分を被覆に当てるようにしてください)

- (1) 非接地側の被覆に触れた場合は、早い断続音と断続発光します。(図6)

- (2) 接地側の場合は、音も光も反応しません。

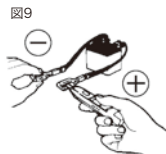
C) 導通チェックをする場合

被覆の上から検電するときと同じようにモード切替スイッチノブを(被/導)の位置(図5)に切替え、スイッチノブに触れながら(図2) 片方の導体に手を触れると共に、もう一方の導体に検電部を当てると(図7) 導通している場合は連続音と連続発光をします。(図8)
なお、接触が不完全な場合には被覆検電時と同じ様に早い断続音と断続発光をする場合があります。(図6)

D) 直流電源の極性をチェックする場合

被覆の上から検電する時と同じ(被/導)の位置にモード切替スイッチノブ(図5)を切り替え、スイッチノブに触れながら(図2) 片方の導体に手を触れると共に、もう一方の導体に検電部を当てると(図9) 検電部を当てた部分が⊕の極性の場合は、連続音と連続発光します。(図8) 次に検電部が⊖の場合は検電電圧により3通りの反応をします。

- (1) 1.8V以上は音も光も反応しません。
- (2) 0.8V~1.8Vの場合、早い断続音と断続発光をします。(図6)(例1.5Vの乾電池等)
- (3) 0.8V以下の場合は極性の判別はできません。(⊕極性と⊖極性)なお、電圧は目安電圧です。



【金属探知する場合】

- (1) 金属感度調整ノブを小の方向にいっぱいに回します。
- (2) モード切替スイッチノブを(金) (図10)の位置に切替えます。
- (3) 金属感度調整を行う当たり、近辺30cm以内に一切の金属物がないことを確認します。

- (4) 金属感度調整ノブを大の方向に回していくとある点でピーという連続音と共に発光表示部が連続発光します。この連続音・連続発光の状態から金属感度調整ノブを小の方向にゆっくり戻していくと音も光も消えます。この音と光の消える点が金属感度調整の感度最大点です。その点から更に小の方向に回していくと感度がだんだん低下します。

- (5) まず、感度最大点で(図11)のように表面を掃くような感じで操作してください。金属に近づくときピーという連続音と共に発光表示部が連続発光します。(図8)
- (6) 金属の位置をより正確に知りたいときは、金属感度調整ノブを感度が低下する方向に少し回し、上記と同じ方法を繰り返して行なうと探知幅がだんだん狭くなりピンポイントな位置をつかむことができます。

【検電及び金属探知を終了する場合】

検電及び金属探知を終了する時は、モード切替スイッチノブを(切)の位置(図12)にしてください。

なお、切り忘れた場合でもオートパワー-OFFしますが、この場合は次に使用する際、一度(切)の位置に戻してから再度機能に合わせて切替え直してください。

【電池の交換時期と方法】

- (1) 導通チェックを行った時発音・発光が弱々しい場合は電池が消耗している可能性があります。
- (2) 使用中、発音・発光が弱々しい場合は電池が消耗している可能性があります。
- (3) 金属感度調整ノブが片方に回しきりになる場合は電池が消耗している可能性があります。電池の交換方法は交換図(図13)を参照してください。

⚠ 警告

- ご使用前に金属探知機能、検電機能を既知の金属および既知の電源で確認してください。
- 「検電」の際は検電する周囲の状況に充分注意してください。感電の恐れがあります。高電圧(600V以上)には近づけて使用しないでください。
- 本器を無断で改造したり、分解しないでください。重大な事故の原因になる恐れがあります。

⚠ ご注意

- 使用を開始する前に本器の外観構造等に異常がないかを点検してください。
- 金属探知機能は深度測定器としては使用できません。
- 被覆検電機能において接地されていない金属管、ケース等は誘導電圧で動作することがあります。
- 雨中では危険ですので使用しないでください。
- 保管する場合は直射日光の当たらない乾燥した所に保管してください。
- 本説明書(裏面)に書いている用途以外には絶対使用しないでください。
- 子供に触れさせないでください。

